

会員各位

平成24年5月1日

協会だより233(5月号)

触媒資源化協会

1. 協会よりのお知らせ

<トピックス>

- 平成24年度会員名簿（平成24年5月31日現在）を発行
- ズードケミー触媒㈱ ⇒ クラリアント触媒㈱に変更（5月1日より）
- ジョンソン・マッセイ・ジャパン・ｲﾝｸ ⇒ ジョンソン・マッセイ・ジャパン 合同会社に事業承継（6月1日より）



Photograph: Takashi Matsuda

- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
- 二. 経産省よりの連絡
- 三. 会員会社の名称変更のお知らせ
- 四. 第三七期（平成二十四年度）総会を開催
事務局より（五月度の予定）
- 五. 【雑学】奥の細道・バスツアー（5-2）
- 六. 【雑学】奥の細道・バスツアー（5-2）

【実施済事項】

- ① 協会だよりー232（4月号）をメール&郵便で送信（4／3）
- ② 会計監査
日 時：4月5日（木）10：00～12：00
場 所：太陽鋳工㈱東京支店会議室（千代田区丸の内）
出 席：監事、会計、専務理事
- ③ 第一回役員会
日 時：4月9日（月）10：30～12：00
場 所：㈱徳力本店会議室（千代田区鍛冶町）
出 席：役員、専務理事
- ④ 定期総会資料送付・2011年分資源化実績報告書送付（4／10） メール便にて
- ⑤ 第37期（平成24年度）定期総会

日 時：4月24日(火) 16:00～17:00

場 所：JXグループ・六本木クラブ会議室／和室(港区六本木)

出 席：会員会社 40社(出席34社、委任状6社)、来賓 経済産業省化学課

【予定事項】

① 第一回運営委員会

日 時：5月17日(木) 15:30～17:00

場 所：堺化学工業(株)東京支店会議室(千代田区岩本町)

出 席：運営委員、第213回月例会幹事会社、専務理事

2. 経産省よりの連絡

・4月 2日(情報提供) 第6回エネルギー・環境会議概要

・4月16日【機1】エネルギー使用合理化事業者支援補助金公募開始(予告)のお知らせ

3. 会員会社の名称変更のお知らせ(旧名称：ズードケミー触媒(株)殿)

【新社名】クラリアント触媒株式会社

《新住所》〒113-8662 東京都文京区本駒込 2-28-8

文京グリーンコート センターオフィス9F

TEL: (03)5977-7300 FAX: (03)5977-7889

《変更日》平成24年5月1日

4. 第三七期(平成二十四年度)総会を開催

平成24年4月24日(火) 16時よりJXグループ六本木クラブ二階会議室にて第37期(平成24年度)総会が開催されました。会員出席数34社(42名)の多くの会員により無事審議が終了し新年度が始まりました。新年度の役員及び委員は以下の通りです。

【新役員】

- | | | |
|------|------------------------|------------|
| ・会 長 | 大井 滋 (JX日鉱日石金属(株)) | |
| ・副会長 | 細田顕治 (松田産業(株)) | |
| ・副会長 | 宮崎隆史 (株徳力本店) | |
| ・会 計 | 牧 恵子 (太陽鉱工(株)) | |
| ・理 事 | 藤井義一 (クラリアント触媒(株)) | 運営委員会管掌 |
| ・理 事 | 水野光男 (アジア物性材料(株)) | 調査・技術委員会管掌 |
| ・理 事 | 尾沼 涼 (ジョンソン・マッセイ・ジャパン) | 広報委員会管掌 |
| ・監 事 | 角谷敏男 (田中貴金属工業(株)) | |
| ・監 事 | 関山新治 (小島化学薬品(株)) | |

【運営委員】

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ・斎藤純夫 (日揮触媒化成(株)) | ・佐藤邦彦 (日誠金属(株)) |
| ・岩崎信男 (新興化学工業(株)) | ・河野照男 (日本無機化学工業(株)) |
| ・新崎俊光 (堺化学工業(株)) | ・川上好武 (ミヤマ(株)) |
| ・櫻井正之 (石福金属興業(株)) | |

【調査・技術委員】

- ・藤井利通（エヌ・イーケムキャット㈱） 貴金属部会長
- ・永田伸和（日興リカ㈱）Ni－Co部会長
- ・神谷康司（太陽鋳工㈱）Mo－V－W部会長
- ・堀内照弘（キンキメタル産業㈱）アルミナ部会長
- ・伊達晋介（アサヒプリテック㈱）レアメタル部会長

【広報委員】

- ・新井 智（JX日鉱日石金属㈱）
- ・形部泰孝（中外鋳業㈱）
- ・渡部真治（川研ファインケミカル㈱）



総会に出席された皆さんを写真（一階ロビーにて）で紹介いたします。

5. 事務局より（5月度の予定）

曜日	月	火	水	木	金	土
1週	4/30	1	2	3	4	5
	振替休日	△	×	憲法記念日	みどりの日	こどもの日
2週	7	8	9	10	11	12
	×	○	×	×	○	×
3週	14	15	16	17	18	19
	×	○	×	第一回運営委	○	×
4週	21	22	23	24	25	26
	×	○	×	×	○	×
5週	28	29	30	31	6/1	6/2
	×	○	×	×	○	×

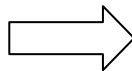
事務局延べ出勤予定：9日（○；終日、△；半日、×は休日）。

5. 【雑学】奥の細道・バスツアー（5-2）

磐梯熱海温泉の「四季彩一力」で旅の疲れを癒した私たちを乗せたバスは磐越自動車道の磐梯熱海 IC に入り東北道の須賀川 IC を目指しました。まずは須賀川市役所の駐車場へ入りましたが、昨年の大震災で市役所の建物も被災し立ち入り禁止の状態です。敷地内にある芭蕉記念館も二階は立ち入り禁止、辛うじて展示スペースのみ立ち入り可能の状態、大震災の影響が福島中通でも大きいのを実感いたしました。



磐梯熱海温泉の宿「四季彩一力」



須賀川芭蕉記念館

私たちはツアーの都合で白河の関から安積山（郡山市）へと先に見学しましたが、芭蕉さんは白河の関から矢吹、須賀川へと来ています。おくのほそ道本文では「とかくして越行まさに、あぶくま川を渡る。・・・すか川の駅に等躬といふものを尋ねて、四、五日とどめらる。・・・」とあり相楽等躬に歓待され一週間ほど須賀川に滞在することになります。ここでの俳句は「風流の初めやおくの田植うた」奥州須賀川でも田植が始まりましたね。駅長の等躬さんが仕切って田植歌の音頭を取るのも風流ですねといった所でしょうか。

【十念寺】（須賀川市池上町）



十念寺境内には安政二年、須賀川の俳人市原多代女が建立した句碑「風流の初めやおくの田植うた」が立っています。須賀川は江戸時代より文化的な街であり、多くの



俳人を輩出しています。芭蕉さん一行は一週間ほど須賀川に滞在しましたのでここには芭蕉の足跡がたくさんありますが、そのほか、現代に

左の句碑は、同じ十念寺にある多代女の句碑です。「終に行 道いづくぞ 花の雲」と辞世の句です。



市街地結びの辻にある芭蕉主従像

かけて特筆すべき名士を輩出しています。

十念寺より市街地のN T T支店の敷地（元相楽等躬の屋敷跡で非常に広い敷地でありました）の隅っこにある可伸庵跡に向かう途中の交差点・結びの辻ににこやかな笑顔の曾良と少し疲れた表情の芭蕉さんのユニークな石像がありました。

【可伸庵跡】（須賀川市本町）

相楽等躬の敷地の片隅に俳人であり世を超越した僧・可伸が草庵を作って住んでいました。芭蕉さんは可伸と意気投合し、おくのほそ道には「此の宿の傍らに、大きな栗の木陰をたのみて・・・」と記載し「世の人の 見つけぬ花や 軒の栗」と詠んでいます。



【長松院】（須賀川市諏訪町）

芭蕉さんを歓待し、一週間もの滞在を世話した相楽等躬の菩提寺である長松院には辞世の句碑と墓所があります。場所は市役所から歩いてすぐ近くです。

等躬の辞世の句「あの辺は つく羽山か 炭けむり」等躬が今のいわき市小名浜に滞在

して体調優れず死の前に呼んだ辞世の句とされていますが、小名浜から筑波山が当時なら見えたのでしょうか。あるいは見えなければ夢に浮かんだのかは判りません。



長松院の境内にて、直前に降った残雪が多くて歩きにくかった。

【神炊館神社】（須賀川市諏訪町）



珍しい神社の名前は成務天皇の御世に、ご祭神の建美依米命が石背国・国造として当地に赴任し社壇を築き収穫された新穀を炊いて天神地祇に捧げて政治の成功を祈願した故事から来ています。室町時代に須賀川城主であった二階堂為氏が信州諏訪神社を合祀したことから諏訪明神として親しまれています。現在では須賀川の総鎮守となっています（神社社記参照）。芭蕉さんは須賀川滞在中にここにも参拝しており、左の写真の石碑が建立されています。参道にある多くの石灯籠も倒れ、石造りの鳥居の横棧が崩れ落ちていました。大震災の影響は大きいと感じました。

【乙字ヶ滝（石河の滝）】（須賀川市大字前田川字滝下）



地元ではミニ・ナイアガラの滝と称せられている乙字ヶ滝。芭蕉さんが見たときは石河の滝と云っていた。



等躬に別れを告げた芭蕉さん一行は、石河の滝を見物してから安積山へと向かいます。甲子岳を源流とする阿武隈川が須賀川に入って高さ約3mの乙字形の滝になった場所です。滝の旧名称は石河の滝、現在は乙字ヶ滝となっています。おくのほそ道には載っていませんが曾良随行日記に見物した記載がありそこで詠んだ句は「五月雨の瀧降りう

づむ水かさかな」です。私たちの訪れた3月中旬は前日に降った雪や、雪解けの季節でもあり、福島県を北に向かって縦断する阿武隈川の水量は多く、見ごたえがある瀧でした。地元ではミニ・ナイヤガラの滝などとも言われています。

【鏡沼跡】鏡石町鏡田かげ沼町

等躬の所を訪問する前に「かげ沼というところに行くに、今日は空曇りて物影うつらず」とかげ沼に寄っています。鎌倉時代の悲恋伝説があった所で、芭蕉さんが立ち寄ったのは、現在の場所と特定はされていないようです。現地は鏡石町の東北本線「鏡石駅」のほぼ西側の東北自動車道と東北新幹線の間にあります。ここにも芭蕉主従の石像がにこやかな顔で迎えてくれています。



【番外編】

芭蕉の句碑、市原多代女の句碑が建立されている十念寺の境内には、27歳と自ずから命を絶ち若くしてこの世を去った円谷幸吉の墓があります。昭和39年の東京オリンピックのマラソンで銅メダルになった円谷幸吉を覚えておいででしょうか？銅メダルを取った後、期待されながら記録が伸びず苦悩の日を過ごしたといわれています。生きていれば72歳になり、筆者と同年であったことを知り感慨を覚えるものでした。

【文責・専務理事】